

日本学術会議地域研究委員会  
地域学分科会  
(第25期 第1回) 議事要旨

日時：2021年2月24日(水) 10:00~12:00

会場：ビデオ会議にて開催

出席者：小長谷有紀、松原宏、矢野桂司、井口梓、岩瀬峰代、岡橋秀典、小林知、小山良太、近藤章夫、曾我亨、田原裕子、中澤高志、水内俊雄、宮町良広、山川充夫、山崎孝史、吉田道代

議事概要

1. 自己紹介、役員を選出

各会員の自己紹介の後、役員を選出を行った。新委員長には宮町会員が全会一致で選出され、委員長より副委員長に田原、幹事に小林、井口の両名が指名され、承認された。

2. 第24期活動の振り返り

資料に基づき、分科会の設立の経緯やこれまでの活動の概要が紹介され、会員間で共有が図られた。当分科会は第22期(2011-14)に設置されたが、当時を知る委員から、設置当初は民俗学や社会教育など市民・住民ベースの学問を意識していたこと、その後、COCなどの政策対応にシフトしたことなどの話があった。また、前期(第24期)は、2つの課題(戦略的な政策対応、地域学の構築)を設定し、両面作戦で進めてきたことが説明された。

3. 第25期活動の計画

分科会の設置提案書や第24期からの引き継ぎを踏まえて活発な意見交換がなされ、前期の課題を継承するほか、コロナ禍が引き金となって生じた地域や社会変容の把握も課題となることを確認した。

4. 特任連携会員の推薦

その場ではとくに推薦はなかった。宮町委員長より、引き続き推薦を受け付けることがアナウンスされた。

5. その他

宮町委員長より、今後の活動予定について3年間で7~8回程度の委員会開催を予定しており、次回は5月~6月に開催を予定していること、活動内容の希望を知らせてほしい旨、アナウンスされた。